

必須手技の「キホン」を理解！

速攻解説・基本手技⑩

Dr. 大見の臨床メモ

導尿、尿道カテーテル留置のコツ

監修 宇部興産中央病院麻酔科部長
森本康裕

著 宇部興産中央病院泌尿器科診療科長
大見千英高

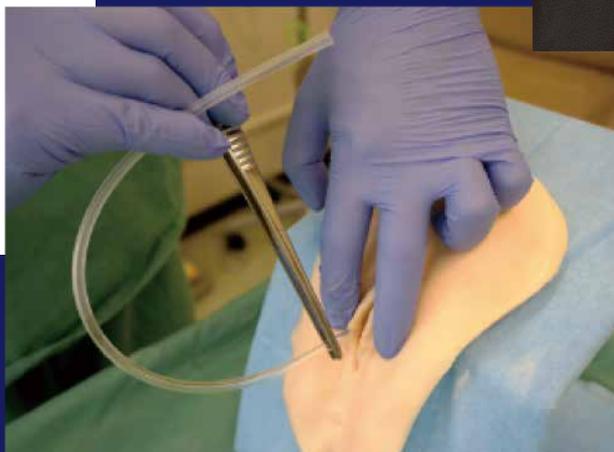
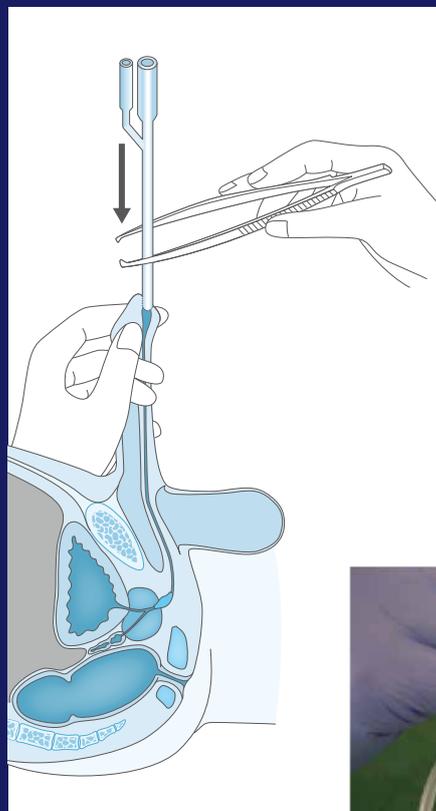
本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続



▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

- ▶ 導尿、尿道カテーテル留置の処置は日常診療の中で頻繁に行われる医療行為で基本的手技に関しては誰もが習得しておくべき
- ▶ 尿閉などの排尿に関するトラブルは救急外来でも比較的よく遭遇する
- ▶ 基本的手技でうまくいかない場合は、無理をせず上級医や泌尿器科へ相談することも大切

I .導尿、尿道カテーテル留置の基本手技

1. 導尿、尿道カテーテル留置を行う目的

- ▶ 尿閉状態の解除
- ▶ 検体としての尿の採取
- ▶ 自排尿が十分にできない患者の間欠導尿や自己導尿
- ▶ 体動困難時、安静の維持が必要な時の排尿管理（留置）
- ▶ 厳密に尿量測定を必要とする場合（留置）
- ▶ 泌尿器科手術後の排尿管理（留置）

コツ・ポイント・注意点

- ▶ 目的に応じて導尿か尿道カテーテル留置を行うか判断する

ピットフォール

- ▶ 目的や患者の状態で準備する道具は変わってくる

講師からのコメント

- ▶ 頻繁に行われる処置であるがゆえに合併症をきたす頻度も比較的高い。
漫然と導尿、尿道カテーテル留置を行うのは控えよう

2. 処置の前に排尿障害のある患者の場合は原因を探る(表1)

表1 排尿障害の原因

現病歴	いつから、どの程度の排尿障害が認められたのか確認
既往歴	脳血管障害、糖尿病、骨盤内臓器の手術歴、前立腺肥大症、尿道損傷、泌尿器科手術歴などの有無の確認
内服薬	排尿障害をきたしうる内服薬の確認(抗コリン作用を持つ薬剤など)
身体所見	外陰部の奇形や外傷の確認、下肢の拘縮の有無の確認

コツ・ポイント・注意点

- ▶ ただ導尿、カテーテル留置をするだけでなく、同時に排尿障害の原因を
考えることが大切

講師からのコメント

- ▶ 排尿障害の原因が推定できると導尿の処置にあたって注意すべき点が見えてくることも多い。たとえば過去に尿道損傷の既往がある場合などは尿道狭窄の存在が疑われ、より慎重な処置が必要となる

3. 排尿障害を起こす可能性のある薬剤 (表2)

表2 排尿障害を起こす可能性のある薬剤

オピオイド
筋弛緩薬
頻尿、尿失禁、過活動膀胱の治療薬
鎮痙薬
消化性潰瘍薬
抗不整脈薬
抗アレルギー薬
抗精神病薬
抗不安薬
抗うつ薬
抗パーキンソン病薬
総合感冒薬
低血圧治療薬

(文献1を基に作成)

コツ・ポイント・注意点

- ▶ 抗コリン作用や交感神経刺激作用のある薬剤は排尿障害を起こしうるので注意が必要

ピットフォール

- ▶ ドラッグストアなどで市販されている総合感冒薬でも尿閉をきたしうるので市販薬についても問診時に確認する

講師からのコメント

- ▶ 薬剤性の排尿障害の場合、薬の調整で自排尿管理ができる患者もいるの